

○表の見方

■学校(小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校)

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
	〇〇小学校 (棟番号 〇〇)	〇〇市〇〇〇	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める 「第2次診断法」(1990年版)	$Is/Is_0=1.10$ $Ct \cdot SD=0.4$			
	〇〇小学校 (棟番号 〇〇)	〇〇市〇〇〇	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める 「第2次診断法」(2001年版)	$Is/Is_0=1.20$ $Ctu \cdot SD=0.5$			

建築物の耐震診断を実施したときの診断方法の名称を記入しています。
下記の附表中の同一名称の診断方法の行から安全性の評価を読み取ります。

評価結果と附表の判定式を比較することで評価(I~III)が決まります。

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める 「第2次診断法」(1990年版)	$Is/Is_0 < 0.5$ 又は $Ct \cdot SD < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Is_0$ かつ $0.3 \leq Ct \cdot SD \leq 1.25$ $1.25 < Ct \cdot SD$
一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める 「第2次診断法」(2001年版)	$Is/Is_0 < 0.5$ 又は $Ctu \cdot SD < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Is_0$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq Ctu \cdot SD$

- I. 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- II. 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- III. 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

評価(I~III)の内容です。

※震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。
いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

※備考に記入がない場合は、Z(地域指標)=1.0、G(地盤指標)=1.0、U(用途指標)=1.0とする。

○用語の解説

- Is: 構造耐震指標(耐震診断を行った建物の耐震性能を表す指標)。
- Is₀: 構造耐震判定指標(現行の建築基準法等により設計される建物とほぼ同程度の耐震性能を表す指標)。強度設計の目標値。
- Is/Is₀: この数値が高いほど耐震性能が高い。
- Ctu・SD(Ct・SD): 建物の累積強度や形状等を数値化して算出した判定基準。この数値が高いほど耐震性能が高い。
- Z・G・U: Z(地域指標)、G(地盤指標)、U(用途指標)で目標値を補正するための指標。補正がない場合は1.0となる。